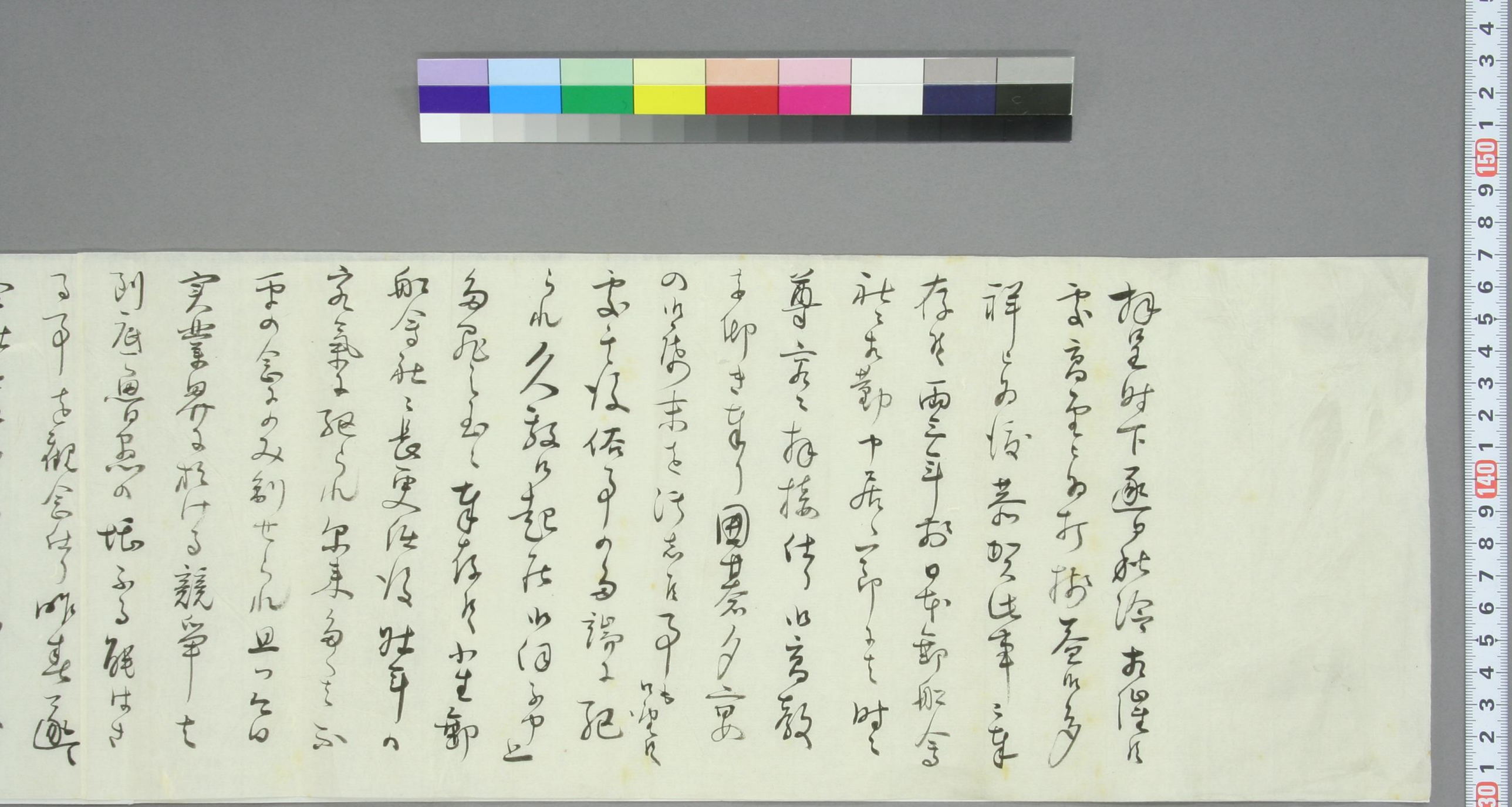

る事を親愛仕り明治廿五年
今社を去るに臨み
主旨過日再び人々傳はれ
実業上の経営を謀り
何の功績も世に見るべき失
敗なく却て本業全く実
業界のことを断念仕り
怪おのゝく力竹研修を得る
事を以て世に立つるの事
小生の素性を御通察願念
仕り専ら研修の中
より出両三年を過て考へ先
般来書方遺漏なきを喜
富書完研究を勉強中に
也事新軍政に於て鐵道
国有論の起り来る仕
り素出の報を嘗て
聊の研究を試みたる
也る明治廿六年東京野
一郎氏の依頼により起稿
仕り申候今年十二月

仕方もなく今年十二月
愚の友を拵へ新作俳句問
題を新聞ボーリング氏の記述
を忘れ要点を穿ち兵中を
拵へ居る中に魏謨の為
覧を供へ二篇し学も殆
ばかりの学を忘れ此中
今を除き研究し為
研究し為る者を佛学を以て
何
何者を以て何
学問なりと称せる
為に生涯
下の身心を役するの求を得
を幸学を遂げて
恐惶謹言

横山俊

九月十四日

大隈伯爵閣下

西京形高重し学問

伯爵大隈重信閣下

緘

三十一年九月十四日

府下荏原郡大森八幡
池田兵助方　横山正脩